



里山も本格的に秋色に染まってきた 11月17日の活動日には、前回の4倍となる8名のメンバーが集結。

里山整備の必須アイテムであるさつまいもを焼きながら、イノシシの『ヌタバ』と化したピオトーフエリアの整備や雑草、シノブの除去に心地よい汗を流しました。

人数のパワーは凄いです。前回と比較しても作業は大きく前進しました。

「継続は力なり」を合言葉に、コツコツと粘り強く活動を続けていきますので、皆様の参加をお待ちしています。

～猛暑の次はエルニーニョかあ～

11月9日、気象庁は「エルニーニョ現象が発生したと見られ、今後春にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い」と発表しました。太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなる現象ですが、冬の平均気温は西日本で高い傾向を示しています。

暖冬は歓迎できますが、夏の猛暑に続いて暖冬となりますと、地球温暖化による気象変動に対する懸念が益々高まっているように感じます。

温暖化による海水面の上昇で、水没の危機にあるとされているモルディブ共和国。26の環礁や1,200の島々で成っていますが、海拔の最高が2.4mであることから、1m海面が上昇すると国土の80%が消滅するとされています。そのモルディブ共和国で、海水面の上昇から国家を守るため、サンゴ礁を削って嵩上げをしているとの記事に触れたことがあります。背に腹を変えられない対応と推察しますが、サンゴ礁を削る行為そのものが、実は地球温暖化を加速させることに繋がります。

サンゴ虫は刺胞動物部門に属していますのでCO₂を排出しますが、サンゴ虫に共生している褐虫藻による光合成がサンゴ礁では上回っていることから、サンゴ礁ではCO₂の固定化がなされている、吸収源であるとの研究成果を約25年前に木津川市内にある地球環境産業技術研究機構(RITE)の研究者であった平賀氏が公表しています。温暖化による影響は全人類が被ることになりますが、「経済成長を優先すべき・・・」とか、「一人で取り組んだところで・・・」というような考え方では、地球規模で気象変動を食い止めることは不可能ではないでしょうか・・・と、ということで、CO₂を固定している里山保全に皆様の積極的な参加をお待ちしていま～す(´-)-☆

※豆知識

「エルニーニョ」はスペイン語で「男の子」を、「ラニーニャ」は「女の子」を意味しています。

～今回も頑張りましたよ～



さつま芋を焼きながら作業ミーティング(´^`)



「モッタイナイ」ことをしました。
大きく育ちすぎて、傷んだシイタケも多数。それでも、バケツから溢れる量が収穫できました。

「マイタケの栽培にも挑戦しよう」、「ヒラタケは簡単に栽培できる」等々、話をしながら焼き芋を(´~`)E! E!

椎茸栽培などを通じて、里山からの恵みを楽しみながら、継続した活動を目指していますので、皆様の積極的な参加をお待ちしております(´_`)☆



次回活動日のお知らせ

日程：平成30年12月23日(日) ※日曜日の活動となります。
時間：午前8時30分 市役所正面駐車場の北側又は現地駐車場集合
内容：枯木焼却、シノブや雑草退治



メンバー募集 キノコモクラブでは常時メンバーを募集しています。

公務員も仕事外の活動に参画し、地域おこしや社会貢献をどんどんやろうじゃないか。この想いを持つ全国の国・地方の公務員が全国で活躍しております。里山からの恵みを楽しみながら、持続可能な活動を目指しています。特に、若くて体力のあるみなさまの積極的な参画をお待ちしております。興味のある方は、木津川市役所 マチオモイ部の武田までご連絡ヨロシク。